

## 【下流】河川調査に関するアンケート〈集約〉

調査個所は、どこでしたか。 大俣～中央橋（飯山市） 14人中14人回答

年齢は、いくつですか

20代	30代	40代	50代	60歳以上
4人	0人	5人	5人	0人

### 【利活用の可能性】

問1 千曲川の利活用により、地域の活性化を図ることが可能だと思えましたか。

可能	13人
不可能	0人
どちらとも言えない	1人

#### ＜千曲川の強み＞

- ・ガイドの庚さんが調査中教えてくれたが、都会の方の川のイメージは護岸等整備され、千曲川のように自然の形を残している部分は少ない為、新鮮に感じる人がいると聞き、他にない魅力の一つだと思った。
- ・千曲川には、流域の歴史が凝縮されているように思える。古代～近世まで。
- ・実際に体験してみて、思っていたよりも流れが穏やかだったので、川下り経験の有無が関係なく、誰でも安全に楽しめるのではないかと感じたため。
- ・活用可能な資源がたくさんあると感じたから。
- ・自然の景観がよく残っていて、また近代の構築物（橋など）がそれとマッチしている。
- ・初めてのラフティングで、白波がたっている箇所は流れが早くなり楽しく感じた。また、川の流れが遅い箇所では普段みることのできない違う視点から景観をたのしめることができ、千曲川は魅力を感じた。
- ・今回の体験で河川空間の魅力を感じる事ができた。これまで見ていた角度と方向が異なるので、いろいろな姿を見せてくれ、たいへん満足です。

#### ＜地域の活性化＞

- ・川遊びは自然の中のアトラクションと考えることもできるので、自然の中でのルールを守れば安全に活用でき、同時に川の怖さも学べるから。
- ・時代はモノ消費からコト消費と言われ、コロナ禍でコト消費が控えられているが、コロナ終息後には一挙にコト消費に多くの方が向かうと言われ、千曲川のラフティングなどは体験型のコト消費としてとても魅力的なコンテンツとなるので、堤防道路でのサイクリングや歴史文化、食などを組み合わせると多くの人を千曲川と利活用して呼び込めば、地域の活性化にも繋がると思う。
- ・現在この地域ではあまり行われていない、水辺に関する事業展開が可能となり、冬のスキーシーズンのほか、グリーンシーズンも楽しめるアクティビティとなる。業としての新たな展開も可能と思える。
- ・初めてのラフティングで、川にはいろいろな表情があることを知り、親水護岸をつくることで、たくさんの方が川遊びをしに来てもらえると思う。
- ・千曲川の良さを知って頂ければ、また来たいな、友達も誘ってみようなど、たくさんの方が飯山はじめ北信地域に来てくれると思う。(私自身またここでラフティングしたい!と思った)
- ・人が集まる、お金が生まれる、納税額が増える。
- ・地元に住む人が地元再発見として、また地元の防災学習の場としては正直良いと思います

## <非日常空間>

- ・川からの景色は、建物等があまり視界に入らず、大自然を感じることができると思う。

## <子ども・初心者向け>

- ・流れがだいぶ穏やかで安全性が高く、カヌー体験や子ども向けのイベントなど幅広く可能性を感じたため。
- ・比較的なだらかな流れで、初心者にはとても良いコースだと感じた。

## <課題点>

- ・県外や海外に対して誇れるだけのポテンシャルがあるか、やや心配を感じる。全国各地に河川はあり、同様の計画が盛んに行われていることから、他にはないような賑わいを創出する創意工夫が必要と感じた。

## 【利活用方法】

問2 あなたがイメージする千曲川の利活用方法について、何かアイデアがあればお書きください。

### <かわまちならではの活用>

- ・水面利用と文化資源等を組み合わせた散策路の設定
- ・自然と人工物の共生をはかる。橋がランドマークとして非常に大事、これとポートをこれから整備していくものと結びつけ、地域の文化を連想させる工夫としていく。
- ・河川防災ステーションと連携した防災教育への取組
- ・既存施設（千曲川リバーフロントガーデン）と連携しながら、親水性、散策道を整備して、スポーツ広場的に活用（緩やかな区間で、カヌーやパドルポートなどの体験とセットで日帰りキャンプなど）
- ・須坂市に整備される福島親水護岸の東1 Km以内の直近に2024年春にイオンモールが開業する予定であることから、そこにテナントでアウトドア用品等の企業が出店した場合には、千曲川の利活用について提案し推進していただく。

### <アクティビティー>

- ・単発のアクティビティーではなく、観光ルートとして、期間限定とせざるをえないが、飯山方面へのルートとして設定したい。
- ・中州でバーベキューや水遊び
- ・屋形船などの料理を設定した船が出せるとのこと、ポートの整備など、急務なのだと感じた。
- ・移動しながら川の中での（中州）キャンプ（水難事故など安全対策が重要になるが）
- ・カヌーポートのコースづくり

### <魅力の活用>

- ・カヌー、ラフティングの楽しさや千曲川の魅力を多くの人に知ってもらうための宣伝活動が必要⇒テレビや新聞、SNSを有効活用する。有名人を招待して体験してもらい、魅力を発信してもらう。民間企業と連携して、CMを流す。
- ・かわまち事業で行っている親水護岸カヌーポートの整備は、まさに千曲川の活用にぴったりだと改めて感じた。
- ・屋島～大俣、大俣～中央橋で川の流れ（流の速さ）が異なるため、スキー場のように、初心者向けルート（カヌー）やラフティングエリア等、区間ごとに名称みたいなものがあると親しみやすいのではないかと。
- ・ガイドの解説で、ポートができることで航路が設定でき、また犀川と千曲川の合流することで水量が増し、動力船が使えるようになり、年間を通した活用ができる。

- ・ボート、カヌー、サイクリング、環境に負荷が少ないアクティビティー

### ＜千曲川に親しむ機会の創出＞

- ・川下りの中で、千曲川の生態系を学ぶ
- ・今回のラフティングのような体験＋知識（情報）は大変良いと思う。
- ・カヌー、ラフティングができる環境作りが必要⇒道具をレンタルできたり、購入できたりできる拠点の整備。初心者でも気軽にカヌーやラフティングができるよう講師付きのイベントを開催。
- ・実際、動きのあるものは鳥などで、こちらの一覧は必要。鳥の専門家と一緒に川下りというのも一つのストーリーになりそう。

### ＜その他＞

- ・各ポートにはパンフの設置が必要だと思ったが、船の上は穏やかなようで、忙しく、現場では見ている場合ではないので、看板の必要性を感じた。
- ・川の上だと自分の場所が分かりにくく、橋はランドマークとして大切なので、番号と名前は大切。

## 【自由意見】

今回の調査でどんな感想を持ったのか、良い所、悪い所、なんでも結構です。自由に感想を記入いただければ幸いです。

### ＜良い点＞

- ・原始社会を探検していく雰囲気味わえた。無理せず原始古代の探検も味わえた、大変素晴らしい企画で感激しました。より多くの子供達にも体験してもらいたいと思った。
- ・カヌー（？）が初めてだったので、非常に楽しかった。
- ・弥生時代の河川交通もこうだったのかと思いがふくらんだ。
- ・水面から景観をみることは貴重な体験だった。
- ・ラフティングで下っていくと橋以外の人工物はほとんど見えない。
- ・激しい流れのところや穏やかな流れのところ、2時間半があっという間に過ぎた。
- ・子ども、学生が経験すれば良さ、悪さを知れ、大事にしよう、あそぼうと思う、と思った。
- ・流れが少なくゆっくり流れる川の上はリラックスできる。漕いでざぶーんと水をかぶって、何かしよう、ではなく、何もなくていいのが、癒されたい人に良さそう。
- ・鳥が結構いて楽しめた。陸上ではあまり見えない光景が新鮮だった。

### ＜悪い点＞

- ・川が思った以上に臭い？下水臭がするのが知れてよかった。
- ・急流もなく流れが穏やかだったので、やや物足りなさを感じた。唯一古牧橋あたりで激しいところがあったが、あとは水をかぶることもなく2時間のうちで退屈を感じる時間があった。

### ＜課題点＞

- ・川遊びをすることは、水難事故など危険も伴うので、利用者の安全管理が課題になると思った。（調査時のガイドの方の案内の重要性がよくわかりました）
- ・ポリ袋のゴミが気にかかった。掃除のようなものが必要になるのではと感じた。
- ・県外から来る土地勘のない人でもわかるよう、次のカヌーポートまで何キロか分かる看板を設置する。イメージは各カヌーポート間の中間地点に1箇所設置。
- ・5市町で有名なものを観光客に興味を持っていただくような仕掛けをする。例えば看板にこの市で有名な絵を書くなどしてPRする。

- 子どものころから飯山市に住んでいるが、実際に千曲川のラフティングボートで下ったのは初めてで、地元に住んでいても、見える景色がこれだけ新鮮なものになるので、うまく活用、アピールが出来れば、楽しめるコンテンツになると思う。
- ボートのガイドのトーク力が全体の満足度に大きく影響すると思う。

#### <その他>

- 屋島～大俣区間はカヌー、大俣～中央橋の区間はラフティングがあると個人的に感じた。